

R O S E

ロゼ

文化情報誌 ロゼ
Art information of Fuji city
Culture Magazine ROSE
Vol.6 EARLY SPRING 1994
新春号



Vol. 6

ロゼ 富士市文化情報誌 ロゼ 1994年1月発行(第6号)
発行 財団法人富士市文化振興財団 〒416富士市藤原1307番地の8 TEL(0545)60-2510代
企画・編集 財団法人富士市文化振興財団 アドスペース エービック株式会社

SHIGEAKI SAEGUSA INTERVIEW



富士の美しくのびやかな姿をテーマに、コーラスを交えたピアノコンチエルトをお楽しみください。

ロゼシアターのオープニングに際し、富士市の依頼に際し記念の作曲を引き受けてくださった三枝成彰さん。すでに九十二年札幌でヴァイオリン協奏曲を北のイメージで、九十三年九州の大分でチェロ協奏曲を作り、今度本州の中央に位置する富士でピアノ協奏曲を作ることになった。日本の北と南、そして中央を題材にとり、弦とピアノによる三大協奏曲が出来上がったことになる。一月三十日にロゼシアター大ホールで発表されるこのオリジナル曲は、市民合唱付きピアノ協奏曲で、題名は「見よ、西風からの富士」。発表を前に市民合唱団も練習を積み、公演に備えている。本誌では超多忙な三枝さんに、曲作りから音楽全般についてまでお聞きした。



"ROSE THEATRE" SPECIAL

A Happy New



●三枝成彰(作曲家)プロフィール
1942年東京生まれ。現東京音楽大学客員教授。東京芸術大学大学院修了。大学在学中に安宅賞を受賞。その後も芸術祭優秀賞、レコード・アカデミー賞、ゴールデンディスク大賞、日本アカデミー賞映画部門最優秀音楽賞、イタリアサレルノ映画祭サヴァッティエーニ賞など数多くの賞を受賞。活躍の場はジャンルを問わず、クラシック、オペラ、ロックから映画音楽、テレビ番組の音楽担当と幅広く、ほかにも89年から93年にかけて「人間クラフティ・三枝成彰対談集」「男が女を嫌いになった日」を出版。CD「ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのための協奏交響曲イ長調」(東芝EMI)、「哀しみのビートルズ」(ファンハウス)、「雪に蔽われた伝説」(東芝EMI)をリリースしている。

富士市の文化の向上と音楽芸術の振興をはかるために作曲して頂いた、市民合唱付ピアノコンチエルト「見よ、西風からの富士」が、いよいよ一月三十日に発表となりますが、構想・制作意図などをお聞かせ願いますか。

「この曲は富士山ができて行く過程を音楽にしたイメージで進んでいくイメージだと思います。曲は全体が一つの楽章となっていて、最初の部分は造山・噴火によって富士ができる過程。次の二楽章目にあたる部分は、落ち着き輝いている麗峰富士の姿を。三番目は日本の象徴として世界中の多くの人々から愛されている富士。最後の部分はお聴きになる皆さんそれぞれのイメージで、富士がどのような終結を迎えていくのかを想像していただくという展開になっています。」

この曲をピアノ協奏曲としたことについて何か特別な理由がありますか。

「九十一年にヴァイオリン協奏曲、九十二年にチェロ協奏曲、そしてピアノと、この二年余の間に三つのコンチエルトが書き上がるという事で、ピアノ協奏曲を書きたかった訳です。」

北のイメージで作られたヴァイオリン協奏曲と南のチェロ協奏曲と、この曲に関連がありましたら、

「そうですね。真ん中の富士がピアノ協奏曲………気候が温暖でとてものびやかな地、静



岡のイメージが私の中にあるのかも知れません。」

この三つのコンチエルトをフェューチャーした今後の演奏活動などのご予定は、

「三月六日にサントリールホール、三月二十八日に新神戸オリエンタル劇場で演奏することになっています。」

一般的にクラシック音楽というと堅苦しいイメージが強く、敬遠されがちなんですが、確かにそうなのかも知れません。しかし、クラシック音楽はもとと楽しんで聴くというより、むしろ人間が生きて行く為の大きな道を探すテーマを提示するものだと考えられています。これは二〇〇年程前にベートーヴェンが言い始めたことで、音楽とは作曲者の思想を伝える一つの道具としてあり、楽しむ為のものではなくメッセージを表現する性格

を課せたことにより、当然それは作曲する人や時代によっても違ってくるでしょう。しかし、ベートーヴェン以前はもしかしたら楽しむだけのものでも良かったのかも知れません。人間が音楽に携わって数万年になるのでしょうか。このベートーヴェンの音楽に対する思いは、当時新しい世紀へ向かっての新しい考え方で、日本にも東洋にもなかったものなんです。ヨーロッパの近代合理主義精神の中で、音楽は音の魔力によって人間を大きく感得するものであると哲学者のカントが云い始めたのです。音楽を聴くことにより、悲しくなったり嬉しくなったりするのはとても曖昧なもので、文学・哲学・宗教などに比べて非合理的で、芸術としては劣等なものだと言った訳です。これに対しベートーヴェンは、音楽はメッセージであり、生き方をサジェスション(示唆・助力)するものだと言うのです。その最も良い例が第九ではないでしょうか。この曲は王様も乞食も関係なく、人間は本来皆平等であるというメッセージ色の強い作品です。欧米のロックにしても基本的には宗教・民族・政治等を主に表現したもので、男や女の愛の歌というのは、どちらかという主従の従にあたるものだったのです。日本で音楽という、字からも分るように楽しむ為のもの、娯楽であるという考えが主流です。しかし欧米では、この考え方は下品で低俗だと言

われた時代が二〇〇年余り続いています。これからの二十一世紀を見つめた場合、音楽は単純に楽しめればいいんじゃないか、大きな喜びを与えられればいいんじゃないかという音楽観に多くの人々が近づきつつあります。私自身も今、この方向が正しいと思っています。ただ世界の多くの作曲家・評論家達は、まだ音楽とは大きなメッセージを持っていないければならないという考えが主流であり、クラシック音楽が堅苦しいというイメージがあるのは、ここに多くの原因があるのかも知れません。」

クラシック音楽以外で好きな音楽は、

「いろいろありますが、ロックが好き、ジャズが好きとかいうものではなく、誰々のような曲が好き、誰々のあんな所が好きというジャンルを超えた部分での好きな音楽は沢山あります。しかし、一番好きな音楽は沢山あれば、クラシック音楽かも知れませんね。」

どうもお忙しいところをありがとうございます。一月三十日のピアノコンチエルトの発表をととても楽しみにしております。」

1月30日(日)出演者のプロフィール



●新日本フィルハーモニー交響楽団
1972年小沢征爾を中心に自主運営のオーケストラとして発足。指揮者団に斎藤秀雄、小沢征爾を擁して演奏活動を開始。翌年欧米演奏旅行を行い、高い評価を受けた。現在100名近い楽団員となり、日本ではトップクラスのオーケストラとして活躍。



●神谷 郁代(ピアノ)
桐朋学園高校卒業後、西独へ留学。72年、エリザベートコンクール入賞後、西欧各地で活躍。バンハからサティまで幅広いレパートリーを持っている。1988年度芸術祭賞受賞。



●堤 俊作(指揮)
1947年生まれ、桐朋学園大学卒業後斎藤秀雄に師事。74年、ロンドン・ルパート国際指揮コンクール第3位、78年、ジュネーブ国際音楽コンクールで優勝している新進指揮者。

三枝成彰

FLASH OPENING EVENT REPORT

特集：オープニングイベント・フラッシュユバック

ロゼシアター竣工、華やかに落成式を挙行!!

一九九三年十月三十一日(日)、中央公園の落葉が潤井川の水面に舞い落ちる頃、待望の富士市文化会館が完成、朝から竣工を祝って落成式が行われました。鈴木清見富士市長の一番太鼓打ち込みの儀から始まった式は、こけら落しの能舞い、式典と続き、厳肅な雰囲気を残して正午に終了、午後には市民見学会が催され、大勢のお客様で館内は終日熱気にあふれました。本誌ではこの日をレポートにまとめ再現してみました。



落成式典(大ホールステージ)



内田弘保文化庁長官



鈴木清見富士市長



斉藤斗志二衆議院議員



渡辺紀富士宮市長



司会：目加田頼子(NHKアナウンサー)



市民憲章唱和：高木カヲル代表

この日の朝、身が引き締まるような冷気が漂う中、富士地区篤工業連合会による木遣りが西側広場で始まり、慶事のスタートがはじまりました。
午前九時三十分正面玄関前で最初のセレモニーであるテープカットが行われ、いよいよ玄関ドアが開かれると、待ちこがれていたお客様がどっと入場、ピカピカの大石のフロア

アを踏みしめながら式典会場の大ホールへと向かう、午前十時NHKの目加田頼子アナウンサー(富士市出身)の司会で落成式が始まり、ステージには羽織はかまに威儀を正した鈴木市長が登場して一番太鼓打ち込みの儀が始まりました。

続いてこの度の会館こけら落しを祝い、大蔵流演者により能・翁「三番三」千歳が舞われ、二階まで満席の大ホールは祝典ムードが最高潮に達した、このあと日本画の大家、平山都夫画伯の「流沙浄土変」を原画としたどん帳が披露され、ライトアップされたシルクロードの図柄の美しさに客席から感嘆の声が上がりました。



祝 富士市文化会館落成

▲正面玄関前のテープカット



▲大蔵流演者による祝いの舞



▲一番太鼓打ち込みの儀



▲富士地区篤工業連合会による木遣り



▲市からの応援を得て、スタッフ総出で歓待



▲オープンセレモニーに訪れた多くのお客様(大ホール)



▲ガス灯点灯式

ホールに興奮の余韻が残る中、式典に入り鈴木市長の式辞、市関係者からの経過報告挨拶などがあつたのち、会館落成に際し、これまでご尽力頂いた多くの方々へ感謝状が贈られました。続いてこの日ご出席の来賓文化庁長官内田弘保氏、衆議院議員斉藤斗志二代議員、渡辺紀富士宮市長の各氏から祝辞が述べられ、最後に愛称「ロゼシアター」と会館のシンボルマークが満席のお客様に改めて紹介され、落成式は滞りなく幕を閉じました。
午後からロゼシアターの一般公開に移り、

十三時三十分から入口を開放、大勢の市民の皆様が見学に訪れました。大ホールではどん帳披露、ライティングショー、中ホールでは「菊の会」による日本民族舞踊と演奏、小ホールでは「松本英彦カルテット」によるジャズ公演が行われ、お客様には施設見学と共にステージ演奏を堪能して頂きました。この日は財団スタッフ総出で対応にあたることも、市役所職員にも応援をお願いしてお客様の歓待に努め、富士市の新たな文化活動の発信基地の船出を祝いました。



▲大蔵流演者による祝いの舞



▲「菊の会」の日本民族舞踊と演奏(中ホール)



▲松本英彦カルテット・ジャズ演奏(小ホール)



▲チケットセンターも溢れんばかりのお客様



▲展示室へかわいいお客さん

OPENING EVENT REPORT

SPECIAL FEATURE

FLASH BACK

あの感動を、いつまでも鮮やかに。

観た・聴いた・感じた、心に残る本物の世界!!

1993年11月1日、ロゼシアターの幕明けは、人を惹きつけてはなさないさまざまな分野の芸術によって展開されました。ホールでは各種公演を、展示室では平山郁夫展、郷土の作家展を開催、大勢のお客様で賑わいました。今回は12月26日までのイベントの中から、ピックアップしたレポートを各アーティストのコメントと共にお届けいたします。

※サインは出演アーティストからいただいたものです。



●前橋汀子ヴァイオリンコンサート
12月3日

国際的に名高い前橋さん、この夜の演奏は特に素晴らしかった。シーンと静まり返った客席、音響のよさと聴衆の熱意に前橋さんも予定外の「テコイネルワイゼン」を演奏、客席と舞台が一体となりお客様も興奮。

前橋 汀子



●松竹歌舞伎公演
11月24日

日本文化の極致、歌舞伎がロゼシアターで上演。独特のせりふ回しと立舞、演劇向きの中ホールにピッタリとはまる。日本画のような舞台上、客席は魅入られたように静まり返った。出し物は「仮名手本忠臣蔵」で、洗い舞台を披露。「口上」では富士を巧みに挨拶の中にとり入れてお客様をわかせる。最後に幽艶な語りを舞い、歌舞伎の醍醐味を見せてくれた。



●石川さゆりコンサート
12月5日

大ホールを埋めつくした聴衆を前に、艶のあるさゆり節が心地よく響く。客席からは「さゆりちゃん!」の掛け声も勇ましく、この夜ロゼシアターは演歌一色に染まった。

石川 さゆり



●柳家小三治と日本音楽集団公演
11月26日

二十絃琴、尺八、太鼓を主体に現代邦楽の粋を集めた演奏会。小三治師匠の落語にドットくる客席、邦楽と落語が見事にマッチした公演だった。

柳家 小三治
日本音楽集団



●俳優座「復活」公演
11月5、6、7日

1年前の本誌に気さくに登場してくれた小巻さん、その飾らない人柄そのままに公演初日は市長を訪問。「中ホール」の舞台は、私のフリーリングにピッタリと語り、3日間4ステージのハードスケジュールも全力投球の舞台だった。

俳優座



●ウィーン・フォルクスオーバー管弦楽団 & メラニー・ホリディ
11月1日: オープニング公演

開演1時間以上前から、大ホール付近のガレリアはオシャレしたお客様で埋まった。上々の滑り出しにスタッフの胸は熱る。気にしていた音響も満点、オーケストラの音、ソリストの歌声がホール一杯に朝々と響き客席からブラボーの声もとび出る。終演後、メラニーさんも「素晴らしいホール」と絶賛。



●スタンダード・ジャズ・フェスティバル
12月8日

「このホールは演り易い!」とリハーサル後のジョージ川口さん、本番では気持ち良さそうにドラムを叩いていた。クラリネットの鈴木さん、ピアノの世良さん、出演の皆さん。素晴らしいサウンドをありがとう。

スタンダード・ジャズ・フェスティバル



●能・観世宗家一行公演
11月26日

600年以上の歴史と伝統をもつ「能楽」、ロゼシアターのオープニングにふさわしく「羽衣」「石橋」が演じられ、発秋の午後のひととき、満座のお客様は幽幻の世界に身をゆだねた。

能楽 宗家 一行



●荳村清志&團三花コンサート
11月9日

「グリーン・スリーヴス」「カルデン幻想曲」「ハンガリー田園幻想曲」「城ヶ島の雨」「アルハンブラの思い出」...ギターとフルートの名手が奏でる美しいハーモニーに客席は陶然。

荳村 清志 & 團三花



●芹洋子ファミリーコンサート
11月3日

細情歌謡のトップシンガー芹洋子さん、清純な歌声を響かせ客席まで下りて歌う。ゲストのさとう宗幸さんも登場しステージは盛り上がる。「音響がよい、ア・カペラで歌ったら最高だろうな」とお二人。

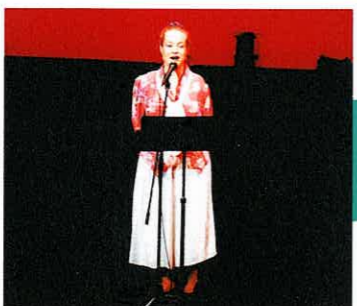
芹洋子ファミリーコンサート



●キエフバレエ公演
12月15日

12,000円のS席が完売となった公演、そして期待以上のステージにお客様は大満足。最初から最後まで華麗な踊りと胸躍豪華な舞台に目を奪われ、世界のキエフバレエの底力を充分に堪能した。

Kiev Ballet



●レーナ・マリアコンサート
12月1日

ピアノひとつでレーナは歌った。シンプルなステージからよく伸びる高音がホール一杯に響く、ハンディをものともない前向きなトークと共に、彼女のゴスペルは満員の聴衆の心を打った。

レーナ・マリア



●マランド楽団コンサート
11月10日

オープン後はじめてのポピュラーコンサートとあって、お客様もリラックス、コンチネンタルタンゴの心地よいリズムに客席では思わずロウズも人も。終演後、わざわざスタッフに「遠くからきたが、雰囲気もよくこんないいコンサートが聴けてよかった」と感想を話して帰った。



●林哲司「富士ルネッサンス」コンサート
12月26日

12月締めを飾る林哲司オンステージ。富士への思い入れが映え、オーケストラ、映像、コーラスを交えたビッグな公演となった。ゲストと共演したビートルズサウンドは特に圧巻だった。

林哲司



●津軽三味線花の大競演
12月21日

毎日、少しずつ売れていたチケット。この夜、中ホールは満席となった。津軽三味線のバトルには皆んな息をのんで聴き入った。じょんがらの哀調、原田さんの民謡と聴きどころの多い公演だった。

津軽三味線花の大競演



●イーヴォ・ボゴレリッチ
ピアノコンサート
11月16日

世界のボゴレリッチ登場! リハーサルの時、ステージを暗くするよう注文、スタッフを驚かせる。本番では一つ一つのキーを慈しむように弾き始め、入魂の演奏を展開、期待どおりのコンサートとなった。

イーヴォ・ボゴレリッチ



●劇団フォーリーズ公演
「おれたちは天使じゃない」
11月8日

幕が下りてホールから出てきたお客様がロケに「素晴らしかった」「感動した」「涙が出た」...と頬を紅潮させて話している。出演した団員も幕間で涙するほど感動あり。今回のロゼ公演は忘れられないステージとなった。

劇団フォーリーズ

富士の文化のレベルアップをロゼシアターから

富士市出身の数少ない女流画家として、中央画壇で大活躍の野田好子画伯。その作風は繊細で優美、自然界をモチーフにした壮大な構図はみる者を圧倒する。最近作「春・秋花園」はロゼシアター中ホールのごん帳になったこともあり、新年初頭を飾る「野田好子展」は大勢の人で賑わった。今回はその野田画伯をアトリエにお訪ねしました。



「母の勧めもあって小学校からピアノを習っていました。当時はとても音楽が盛んだっただけです。県立吉原高等学校に入塾して岡田香積先生に習い、東京へもレッスンに行ったりと本格的にピアノをやりましたから、何か機会がある毎に上級生の声楽や合唱ウエイオリンの伴奏などを務めさせられましたね。」

「絵も小さい頃からとても好きでした。社宅のお隣に東京の芸大生がよく出入りしていたんです。私は自分から進んで学生さんの所へ絵を描きに行っていました。女学校では外山先生という立派な方に教わりましたし、卒業の頃戦争で吉原に疎開していた曾宮一念先生の所で絵を習っていました。」

「昭和二十五年に戦争の関係で上海にいた父も本社勤務で戻り、東京へ転居したんです。当時熱海に福島繁太郎先生という有名な絵のコレクターで評論家がいらっしゃって、有望な新人を世に出そうと曾宮先生を通して私に連絡をくれました。昭和二十八年に福島先生の銀座の画廊で個展を開いてくれたんです。それが大反響で、まさに彗星の如く現われた新人としてのデビューです。」

先生は当時、一番良く絵の解る知識人として有名画家との交流も多く、香月康男画伯との出会いも国画会会員となつたのもその頃です。

野田先生の絵の特徴でもある洋画と日本画の融合は意識して「洋画が日本に入り、それなりに発展しましたが、その流れだけを追ってオリジナリティは出せないと思い、伝統的な日本画の技法と洋画の接点を考えました。時絵の技法も人間国宝の方に付き習得し、絵にとり入れてみたのです。」

「考えてみますと、私は富士にいた頃から環境にとっても恵まれていたと思うんです。周りの方に親切にしていたので、常にレベルの高い方とも巡り合えました。画壇に出てからも、三越の支援で三岸節子片岡球子さん達との「潮展」も長く続きました。今回のロゼシアターの展示会も、その頃親切にしていた方々や支援してくれた方々に対し、感謝の気持ちをこめて展示させていただきました。」

「そういう意味では後輩のステイタスシンボルのようになっていますよ。」

音楽と私

日ごろ、あまり音楽の会などに足を運ぶことのない私だが、縁に結ばれて昨年の暮ちかくにいろいろの音の世界に身を浸すことができた。その「二三」を記してみる。

池袋に大きな芸術音楽のための建物がつくられていることは見知っていたが、完成して東京芸術劇場となつてから行ったことはなかった。その大ホールに『西郷昭子リサイタル、93現代の三絃』が開かれるという一夕に誘われたので、劇場見物の気持ちも動いて出向いた。西郷さんの三味線にまつたく予備知識がなかったが、その演奏を聴いているうちに彼女がほぼ二十年前にわたって組み上げてきたという「三絃による新しい領域」という音楽の調べに魅きこまれていく自分に気付いた。ことにコントラバスや打楽器との三絃の共鳴は「そのための」渡辺晋一作曲曲であるにせよ、いまだに経験したことのない音の空間に引き揚げられるような不思議な感覚だ。これは詩だ。遠い関係にある事物が面白い、意想外な結合をさせられて、しかも不自然な在り様でなく置かれたとき詩(ポエジー)は発生するが、この耳馴れない新しい音の取合わせは「二つの相反するものの調和」、「不調和の調和」をもって私の心に鳴動する詩(ポエジー)にはかならなかつた。いい体験をした夕べであつた。

その数日後、私の主宰する句誌「畦」のさなわしの会の忘年句会があつて相

模の大山へ出かけた。夜は山麓の宿坊で私の還暦を祝う小宴がもたれた。誌友の好意で私に陳璞(Chen Shan)さんの胡弓の演奏がプレゼントされた。陳さんは一九六三年中国福建省の生まれで、私の半分の年齢だが、八六年に全中国演奏者コンクールで一位、八八年、高建龍氏と板胡二重奏で三位、同時に作曲部門二位という天才である。九〇年留学生として来日、日本語学校終了後、音楽学校でエレクトーン作曲を専攻しているという。

富士の八尾の風の盆の踊りに弾かれるうらさびしい胡弓の音しか聴いたことのない私には陳さんの胡弓は、まさに革命的な衝撃であった。それは胡弓を弾くというより弓と三弦と一体になつて彼の全身全霊がうらさびしく、鳴っているというほかなぬものであつた。弾き終つてもしばらくはその余響が、身体から退かないらしく、ぐったりとして胡弓に倚つて余喘を静めているのを見るのは堪えがたいほどであつた。若い中国の楽人の情熱的演奏は私に久しぶりに熱狂、夢中の芸術的創造力を喚起してくれるものとなつた。「蘇州夜曲」「川の流れるように」など日本の曲も良かったが、「紅樓夢」「月芽五更」など古典や自作の新曲が感銘深かつた。伴奏はギター。

画家

野田好子

PROFILE

のだよこ/静岡県富士市生まれ。
1943年、静岡県立富士高女(現吉原高等学校)卒業。曾宮一念に師事。
1953年、国画会会員となる。1964年、「雲中夢」文部省買い上げ。1967年、田口善国先生に蒔絵を習う。
1969年、「潮」展が結成され、片岡球子、三岸節子他9名と同人となり、1983年まで出品。
1980年、吉原高等学校創立70周年記念事業として斎藤センターにて回顧展。
1986年より「世田谷区美術秀作展」に毎年出品。1990年より「国画女流13人展」に毎年出品。
1992年、NHK国際障害者の10年「私の地球、私の仲間」絵画展の鑑査員となる。
1993年、ロゼシアター(富士市文化会館)中ホールごん帳の原画制作。
1994年、ロゼシアターで回顧展、他数々の展示会に出品、個展10数回。
作品所蔵:東京国立近代美術館、静岡県立美術館、奈良国立近代美術館、世田谷美術館、浜松市立美術館、松岡美術館、富士市文化会館、他多数。



俳人

上田五千石

PROFILE

うだ ござんごく(本名 上田明男)/昭和8年東京生まれ。
静岡県立富士高を経て、上智大学文学部新聞学科卒。
昭和29年 秋元不死男に入門、俳句を本格的に始む。
昭和44年 処女句集「田園」により第8回俳人協会賞受賞。
同年第8回静岡県文化奨励賞受賞。
昭和48年、主宰誌「畦」創刊。
昭和62年より2年間NHKTV俳句入門講師。
俳人協会理事。文芸家協会会員。富士市文化振興財団理事。
〈著書〉句集「風景」「琥珀」等。入門書「生きることをうたう」他。

Pick Up People

●シリーズ・富士の文化活動に参加する人々⑧



「心に残る歌は世代を越えて歌われる。」
ヒートルズ→GS→フォークムーブメントから数年前のバンドブーム→カラオケと、若者文化の中で歌うことの楽しさは様々な形で変化し、ヒートルズ→GS→フォークの洗礼を受けた人はすでに四〇代、五〇代、今はその子供達が一番先陣にいます。
アコースティックギターでフォークソングを中心に活動している「Gクレープ」の小澤さんとその仲間（さんび）の藤澤さん。小澤さんは十二年前から勤労青少年センターのギター講座で教えていたが休止、昨年五月から吉永北公民館の牧野館長の協力でGクレープを発足。現在Gクレープ五名、とんび四名で毎週月曜にグループ練習を行っている。「Gクレープとは、ギターでクレープのようにやさしく包むという意味。私が七〇年代

に出会ったフォークソングを中心に、誰でも気軽に歌え心に残る歌を多くの人と共有したい。」と小澤さん。いつの時代も良い歌は沢山あるが、レコードやCDになっっていない良い歌がありま。メロディーも詩も時代に流されない、そんなものを残したい。」と藤澤さん。Gクレープ自体は結成一年も経たないのに定期的な発表の場はないが、他グループとの交流、吉原



アウトノスのミニコンサート、家族ぐるみのキャンプを兼ねた集まりや親子で歌う会も開催。「人が集まり歌う場ができればOK。若い人は感性に合う歌を選んでほしい。良い歌が世代を越えて引き継がれて行くことが最大の目的」。感銘を受けて始めたフォークソングが、今では家族を含めた温かな集いの輪に発展しつつあります。

歌うことが好きな人、大集合!!

- 日時/毎週月曜日PM 7:00~9:00
- 場所/富士市鶴無ヶ淵162-1 富士市立吉永北公民館
- 参加対象/年齢・経験すべて不問
- 会費/なし
- その他/全くギターが弾けなくても初歩から指導します。
- 問い合わせ/Gクレープ:富士市鶴無ヶ淵290-7 ☎0545-21-5646 小澤啓男
とんび:富士市今泉6丁目13-6 ☎0545-52-8954 藤澤尚朗

Gクレープ

グループやサークル活動の楽しみの一つに、最初は小さくとも次第に大きな輪となって成長して行くことがあります。今回は、フォークソングでそんな楽しみを届けようとしている「Gクレープ」の皆さんです。



編集後記

あけましておめでとうございます。ロゼシアターオープン後、初めてのお正月を迎えた。昨年十一月、十二月の間、二十四本の自主事業をこなし久しぶりの休日を通したというのが実感▼キーロフバレー「くのみ割り人形」が評判をよんだ。それを耳にしたガレリアに飾られているオーケストラ人形から「ボクたちモ……」の声がかきこえ、いつの間にか階段に並んで演奏を始めた。そこをパチリ、本誌の表紙に載るとあって人形たち何て生き生きとした表情をしているのか▼ロゼの舞台上に立った多くのアーティストの感想は異口同音に「音がよい」ということだった。それと借景としての富士山、年頭にあたり、よくかみしめていきたい。

富士市文化情報誌「ロゼ」
一九九四年一月発行(第六号)
発行 助富士市文化振興財団
千四一六
富士市原一三〇七番地の八
TEL(〇五四五)六〇一二五(一〇代)

企画・編集 助富士市文化振興財団
アドニス エービック株式会社

ROSE THEATRE EVENT INFORMATION

●チケットお買い求めのご案内●

イベント名称	日時	ホール	チケット料金[円]	発売状況	イベント名称	日時	ホール	チケット料金[円]	発売状況
スペインギターとフラメンコの夕べ	2/4(金) 19:00	中	3,000均一	好評発売中	ぬいぐるみ劇「ロビンフッドの冒険」	3/6(日) 11:00 14:00	中	1,500均一	好評発売中
劇団SCOT「リア王」	2/10・2/11 18:30 14:30	中	4,500均一	好評発売中	ロゼ・イヴニングコンサート ~シューベルト 歌曲の夕べ~	3/11(金) 19:00	中	2,500均一	好評発売中
ロゼ・イヴニングコンサート ~ヴァイオリン名曲の夕べ~	2/18(金) 19:00	中	2,500均一	好評発売中	NHK交響楽団演奏会	3/23(水) 18:30	大	S 7,000 A 6,000 学生2,500	好評発売中
日本民族舞踊団	2/26(土) 14:00 19:00	中	S 3,500 A 3,000	好評発売中	ロゼ・アフタヌーンコンサート ~弦楽合奏の魅力~	3/25(金) 14:00	小	2,500均一	好評発売中

●1994年2月~4月の催し物のご案内●

財団自主事業をはじめ、一般貸出事業を含めた2月~4月分のイベントスケジュールをお知らせします。このスケジュールをもとに、あなただけのスペシャルプログラムを作ってください。

27	26	24	23	22	20	19	18	15	13	12	11	10	8	5	4	日
日	土	木	水	火	日	土	金	火	日	土	金	木	日	土	金	日
中	小	大	小	大	小	中	大	小	中	中	中	中	小	中	中	日
豊三曲連定期演奏会	ラオス講演会	日本民族舞踊団公演	若柳吉以 日本舞踊公演	弦楽の魅力を楽しむコンサート	NHK交響楽団演奏会	木下み子ピアノ発表会	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演

29	27	26	25	24	23	21	20	19	13	12	11	8	5	2	日
火	日	土	金	木	水	月	日	土	日	土	金	日	土	水	日
小	中	小	大	小	小	小	小	大	小	中	中	小	小	小	日
富士市青少年指導員全体研修会	錦心流 琵琶春期演奏会	富士市三曲連定期演奏会	馬場美穂ピアノ・エレクトーン発表会	フォークローレリア・ミニコンサート	若柳吉以 日本舞踊公演	弦楽の魅力を楽しむコンサート	NHK交響楽団演奏会	木下み子ピアノ発表会	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演

28	26	24	23	21	20	17	16	11	10	9	4	3	2	日
金	火	日	土	木	水	日	土	月	日	土	月	日	土	日
小	小	小	大	中	中	小	小	小	大	小	大	小	大	日
花崎静子ピアノ発表会	佐藤光子ピアノ発表会	小出絵美ピアノ発表会	創価静岡吹奏楽団定期演奏会	豊三曲連定期演奏会	若柳吉以 日本舞踊公演	弦楽の魅力を楽しむコンサート	NHK交響楽団演奏会	木下み子ピアノ発表会	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演	若柳吉以 日本舞踊公演

チケットのお申し込み・お問い合わせは

ロゼ・チケットセンター

☎0545-60-2500

受付時間/9:00~19:00

プレイガイド

- すみや 富士本町店 ☎(0545) 63-2233
市役所前店東館 ☎(0545) 53-5800
●富士文化センター ☎(0545) 61-8262
●ラ・ホール 富士 ☎(0545) 53-4300
●チケットセンター(沼津) ☎(0559) 61-2405
静岡・浜松店でも取り扱えます。
- カワセ書店 岡 店 ☎(0545) 71-9592
富士宮・宮原店 ☎(0544) 24-7160
●ユニーサービスカウンター 原 店 ☎(0545) 51-9027
吉富 店 ☎(0544) 24-0255
●丹沢楽器 富士店 ☎(0545) 52-1586

●SYMPHONY OF DOLLS●
ロゼシアターオープンを待ちこがれていた私たち人形オーケストラ。産みの親の手を離れて、いま2階ガレリアで毎日演奏会を開いています。ご来館の折にはぜひ一度アンサンブル豊かなロゼシンフォニーを聞いてみてください。



●各ホールでのイベントや展示などの日程は変更になる場合があります。●

開催期	展示室	展示内容
2/21~2/28	富士市小学校園工芸美術展	富士市小学校園工芸美術展
2/25~3/5	稲葉美奈子・稲葉哲之木工芸展	稲葉美奈子・稲葉哲之木工芸展
2/25~3/5	ポール・スチュアート・内藤恒雄版画展	ポール・スチュアート・内藤恒雄版画展
2/25~3/5	県道道連 富士地区書初展	県道道連 富士地区書初展
2/25~3/5	池坊富士支部青年部発表会記念展	池坊富士支部青年部発表会記念展
3/8~3/17	富士の型染め展	富士の型染め展
3/18~3/27	海老原社中 華道展	海老原社中 華道展
3/23~3/30	漆畑登「書磁展」	漆畑登「書磁展」
4/1~4/24	岩田書道会書道展	岩田書道会書道展

春のイベント ここが見どころ



3月23日(水):大ホール
NHK交響楽団演奏会
「N響」の名で親しまれるNHK交響楽団。NHKホールでの月6回の定期演奏会をはじめ、年間約150回におよぶ演奏会を開催し、第一線の音楽家達による白熱したステージを飾ります。今回は指揮にH・フルベルク、ソリストにC・ジュイエを迎え、超一流の演奏を展開します。どうぞお楽しみに。



4月4日(月):大ホール
ウィーン少年合唱団
オーストリアから「音楽の使者」ウィーン少年合唱団がロゼシアターにやってきます。制服に身をつつんだ合唱団員の可憐な姿と清らかな歌声、規律ある行動は来日を重ねるたびに日本の音楽ファンに親しみと大きな感動を与えています。若く新鮮な天使の歌声をたっぷりとお聴かせします。